



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail oharamasaki@gmail.com

## ★1 ポートフォリオ発表会

愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

11月18日(日)9時半よりポートフォリオ発表会が開催されました。今回はコロナ禍の影響なのでしょうか、応募演題が1題でした。

発表者は専門研修1年目、愛媛生協病院の川寄美智子先生、ポートフォリオ領域は「患者中心の医療」です。中断を繰り返していた橋本病の女性の症例を通して、患者中心の医療の技法を中心に、SDH(健康の社会的決定要因)のSocial Vital Signsを用いて取り組んだものでした。病識があるのに中断するという不合理な判断の背景に、患者が抱える複雑な心理社会的背景が潜んでいることを聴き取り、状況を整理しつつ本人の健康観を尊重したうえで受療環境を安定化していったという報告でした。

質疑応答はゆとりをもって意見交換をすることができました。患者中心の医療の技法の4つのコンポーネントのうち、3つめの「共通の理解基盤を築く」という部分が重要で、それがまた難しいというコメントには専攻医のみならず指導医層も共感したのではないのでしょうか。また今回の症例とは直接関係はありませんが、紹介を受けた場合、初めて来院した時点だけでなく、その後の経過も紹介元にお知らせするといいい、とのアドバイスがあり演者は深くうなずいていました。

会場には医学生も参加しており、「総合診療医の専門性」について一端を見てもらう機会になったことでしょう。また高松平和病院の植本真由先生に専攻医部会の紹介をしてもらい、専攻医同士のヨコのつながりを伝えてもらいました。

この間、ポートフォリオ発表会では優秀演題を選出していました。応募1題で必然的に最優秀ポートフォリオ賞となるのですが、私が関連するプログラムでCOIに抵触しそうですので今回は優秀演題の選定はいたしませんでした。

### 【ポートフォリオ制作について】

専門医機構の総合診療専門研修プログラムではその必要性を無くして、わざわざ書かなくても修了できるように変遷させています。しかしながらこの間、総合診療医・家庭医を養成してきた指導医の立場から申し上げれば、苦勞してポートフォリオを制作することが良質な総合診療医・家庭医としての成長に不可欠と信じています。プログラム責任者の先生、指導医の先生、そして専攻医(を考えている初期研修医)の先生におかれましては、ポートフォリオを制作するプログラムを続けていただきたいと存じます。

来年度春のオリエンテーション+ポートフォリオ発表会、秋の地方会でのポートフォリオ発表会、ともに発表演題の応募をお待ちしております。

## ★2 Webで地域医療ワークショップの開催

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

### 1) 愛媛大学医学部3年生に対する地域医療学講義

#### ・「高齢者医療と福祉—求められる医師像—」(

2020年10月29日、15:20~16:20 Web 講義)

綾川町国民保健陶病院院長 大原 昌樹先生

大原先生が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて具体的な事例を交えながらわかり易く解説していただきました。今回の講義では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネージャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。



令和2年10月29日愛媛大学医学部医学科地域医療学講座講義15:20~16:20(Web,オンライン)

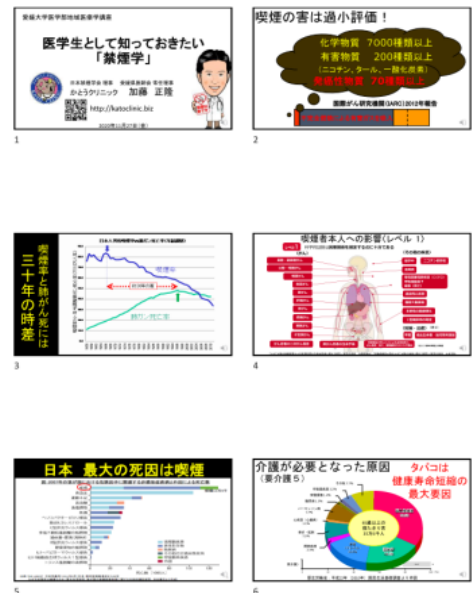
#### ・「家庭医によるタバコフリー活動」

(2020年11月27日、15:20~16:20: Web 講義)

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。お忙しい中、PPTの録画を用意していただきました。

最初の画面ではいつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿が映し出され、先生の熱意と熱い息込みが伝わる内容でした。



### 2) 西予市多職種連携と地域包括ケア研究会

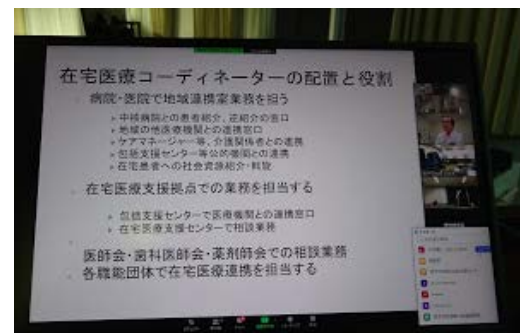
(2020年10月13日、17:30~18:30 ハイブリット講演会)

司会: 川本龍一

「綾川町における多職種連携による地域包括ケアの取り組み」

綾川町立陶病院院長: 大原 昌樹先生

現在、愛媛県西予市西部地域では、在宅医療・介護連携事業のモデル地区を目指し、保健・医療・福祉の連携による地域包括を行っています。今回、先駆的な取り組みを香川で実践している大原昌樹先生にご講演いただきました。病院会場と Webでのハイブリット方式での開催であり、地域の保健・医療・福



社関係者 100 名余りが受講されました。

大原昌樹先生からは、地域包括ケアの目指すところを具体的な事例を交えながらわかりやすく説明いただきました。既に、多職種連携のためのネットワークやツールの開発も進められており、コロナ感染が落ち着けば現地に赴き現状を直接学びたいとの意見が多く聞かれました。



### 3) 愛南町地域サテライトセンター開設記念講演会

(2020年11月11日 19:00~21:00、Web講演会)

愛媛大学医学部地域医療学講座主催 プログラム

#### ◎基調講演

「地域医療と教育」

演者：三瀬 順一 先生

愛媛県立南宇和病院内科部長・地域包括医療センター長

愛媛大学医学部卒業後、自治医科大学附属病院地域家庭診療

センターシニアレジデントを経て医学教育や家庭医医療、総合診療分野で活躍中。

#### ◎特別講演

「地域医療とプロフェッショナリズム」

演者：宮田 靖志 先生

愛知医科大学医学部地域総合診療医学寄附講座教授

自治医科大学医学部卒業後、愛媛県内の診療所で活躍後、札幌医科大学医学部地域医療総合医学講座、北海道大学病院地域医療指導医支援センター・卒後臨床研修センター、国立病院機構名古屋医療センター卒後教育研修センターを経て、医学教育や総合診療分野で活躍中。

今回、日本プライマリ・ケア連合学会の会員でもある村上晃司先生が愛媛県立南宇和病院の院長になられ、同病院では嶋本純也先生をはじめ多くの自治医大卒業生が勤務されています。さらには本年5月からは、今回、基調講演をお引き受けいただきました三瀬順一先生が栃木県から戻られ勤務されています。

こうした状況もあり、本年4月より県立南宇和病院内に愛媛県からの寄付により地域医療学講座のサテライトセンターが設けられ、学生教育をお願いしているところです。今回の記念講演会では、愛媛県出身で北海道や愛知県での地域医療活動に情熱的に取り組んで来られた宮田靖志先生にも特別講演をお願いしました。今回、コロナ禍のおり、お二人先生から地域医療に関する貴重なお話を伺うことができました。どの内容もこれからの学生教育や地域医療において示唆に富む重要なお話であったと思います。本当に有難うございました。

### 4) 第 20 回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会

第 27 回四国地域医学研究会 合同学術集会 2020

(2020年11月14-15日、ハイブリット講演会)

在宅医療・介護連携に関する調査

愛媛大学医学生：山本 知生、石橋 真子、仲野 日南子、永山 晃生、福岡 奎人、  
宮崎 新大、藤井 日向

愛媛大学医学部 地域医療学講座：菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、川本 龍一

本年度の学会では、愛媛大学医学部地域医療学講座配属の学生より地域包括ケアに関する調査・発表がなされた。地域の保健・医療・介護関係者の連携を発展させるためには、多職種でのグループワークや医療に関する研修会の開催等が必要であろうとの報告であった。



### ★3 第20回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会

#### 第27回四国地域医学研究会 合同学術集会2020を開催して

大会長：愛媛県立中央病院 杉山 圭三

全国で新型コロナウイルス感染症が流行し、様々なイベントが自粛・中止になる中、四国地方会をハイブリッド形式で開催いたしました。令和2年11月14日～15日にかけて、愛媛県立中央病院を会場に、現地開催+Web開催という、これまでやったことのない形式での地方会開催でした。開催中止・延期という選択肢も考慮しましたが、1年待ってもコロナ禍が鎮まる保証も無いため、思い切って開催させていただきました。来年以降もどうなるかわからないだろうと思いき、それなら一度やってみて、今後の参考になれば良いかと思つての事でした。

いざ開催するとなつていろいろ慌てて準備しましたが、四国支部は規模が小さいため、コストをかけずに出来ることや、業者に頼んだ方が良かったかなと思うところ、或いは現地開催の良いところや、Web開催の方が良いところなどがある程度見えてきました。地方会は4県持ち回りで開催していますが、ノウハウの直接的な伝授は無く、今回のような新しい試みについては経験を記録して共有することが良いだろうと思つました。

#### 【今回、コストをかけなかったところ】

会場費：病院の講堂を会場とすることで無料に。

開催案内：A3用紙を購入し、既存のプリンターで印刷。

プログラム：A4用紙を購入し、既存のカラーレーザーで印刷。

ダイソーでレールファイルを購入してとじ込み。

Web参加者にはPDFファイルで提供。

名札：ダイソーでイベント用の名札ケースと名刺サイズカードを購入。

名刺を印刷する要領で名札を作成。

参加証と領収書：名札と同様に、既存のインクジェットプリンターで印刷。

地方会用のメール：無料のOutlookのメールサービスを利用。

Microsoft Teams：地域医療振興協会の共同開催で、費用負担なし。

Web配信：愛媛県立中央病院のスタッフのノウハウと機材で対応。

動画配信にはOBS Studio（無料）を使用。

（当院の研修会動画配信のための機材とノウハウがあった。）

会場内で使用する PC 機材：院内既存のものを持ち寄った。

(院内 LAN 接続に機器の制限あり。)

地域医療振興協会からの機材提供もあり。

**【少しコストをかけて購入・準備したところ】**

大画面液晶テレビ：演者用の配信状況モニターとして購入・設置。

プロジェクター：会場内の演題表示用に購入。安価なもの。

ポケット WiFi レンタル：会場内ネットワークの予備として準備。

ネットワーク HUB：Gigabit の LAN HUB を会場内配線用に購入。

ケーブル類：10m LAN ケーブルや 10m HDMI ケーブルなどを購入。



**【業者へ依頼する方が良かったかと思うこと】**

Web 開催の全般：正直、かなり面倒だった。

参加費振込や動画配信の対応は大変。

愛媛県立中央病院スタッフの経験に大きく依存した。

**【現地開催の良いところと課題】**

参加費徴収、参加証・領収書・単位票の交付がその場で完結する。

当日参加に対応しやすい。

質疑応答がしやすい。

参加者間で交流が出来る。

観光やお土産の楽しみがある。

感染防御への配慮が必要。

会場費が必要になる (かも)。

**【Web 開催の良いところと課題】**

プログラム・抄録集：印刷が不要。PDF ファイルで配布。

参加者が増えやすい：県外学会員を含め、自宅からでも参加可能。

開催側は、必要な単位票を多めに用意する必要あり。

Web 配信システムの参加数上限に注意が必要。

当日参加：不可能ではないが、メール等の即応が必要。

学会本部の要求：Web 参加者にレポート提出を求める決まりだった様。

参加者への案内後に判明したため対応困難だった。

事後対応：Web 配信の参加ログを確認し、実参加の確認が必要。

Web 参加者からの提出物の確認が必要。

参加証や領収書、単位票の郵送作業が必要。

完全事前登録制の方が楽で無難。

システム：Zoom や Teams 等の有料版が必要。

配信動画の録画・保存・再利用も可能。

ある程度高性能な PC 環境と安定したネットワークが必要。

ハウリングに要注意。ヘッドセット使用が無難かも。

質疑応答：座長や参加者の慣れも必要。

チャット機能が質疑の活性化に有用。

接続の不安定さ：参加者側のネットワーク環境を保証できない。

発表ファイルは事前提出、開催側から配信が無難。

参加者間の交流：フリートーク会議室の様な設定が必要かも。

Web 懇親会を企画するのも良い。(今回は余裕が・・・)



以上のような、様々なことが実感され、良い経験になった地方会開催でした。

ただ、たまたま当院の地域連携の講演会を Web 配信するために、いろいろとトライ&エラーで環境改善しつつ経験を積んでいたスタッフの協力が得られ、大きなトラブルなく Web 参加者にもおおむね好評な配信が出来たのは、非常に幸運でした。

近年はおおむね 100 名以上の参加者がありましたが、今回は周知の期間や手段に問題があり、参加者数としては半減しておりますが、新しい試みとしてはまずまずの手応えで、何とか対応可能だった人数でした。来年は高知県にて開催される予定ですが、今後の地方会の開催や他のイベント開催にも参考になればありがたいと思います。何かご質問などありましたら、地方会用のメールへ問い合わせしていただければと思います。

#### 【地方会参加者実績】

現地参加実人数：医師 32 名、薬剤師 1 名、医学生 8 名

Web 参加実人数：医師 16 名、薬剤師 2 名

愛媛 24 名、香川 8 名、徳島 5 名、高知 12 名、四国外 2 名

#### 【お問い合わせ先】

合同学術集会 2020 用メールアドレス：[jpca-ehime2020@outlook.jp](mailto:jpca-ehime2020@outlook.jp)

大会長：愛媛県立中央病院 総合診療科 杉山圭三

